



2020年1月号

## 検査室だより

明けましておめでとうございます。令和になって初めてののお正月です。夏にはいよいよ「東京オリンピック」が開催されます。みんなが楽しくその日を迎えられるように。今年こそ大きな災害が起きませんように。皆様にとって素晴らしい年になりますようにお祈り申し上げます。

昨年「男性不妊」をテーマにした映画が公開され話題になりました。特に病気のない、妊娠を望んでいる男女が避妊をしていないにもかかわらず一定期間妊娠しないものを「不妊症」と言います。WHOではこの「一定期間」を「一年間」と定義しています。そのようなカップルは、30年ほど前には10組に1組と言われていましたが、今や5組に1組ともなわれています。原因は、男性側にある場合、女性側にある場合それぞれ半々です。男性側の原因として、①精子をつくる機能に問題がある②つくられた精子の通り道に問題がある③うまく性行為ができないなどがあります。女性側の主な原因としては①卵を作るところに問題がある②作った卵を子宮まで運ぶ卵管に問題がある③胎児が発育する場である子宮に問題があるなどがあります。男女とも加齢による「精子数の減少・運動率の低下」「卵子の老化」なども避けられません。しかし今では医学の進歩とともにいろいろな治療法があります。また、体外受精などの生殖補助医療も進歩しています。「世界初！試験管ベビー誕生」の記事が新聞の一面を飾ったのは遠い昔のことです。厚生労働省は全国に「不妊専門相談センター」を設けています。メールで相談できる機関もあるようです。もしかして不妊症かもと思ったら一度相談してみてください。男女の区別なく社会で重要な役割を担う時代になってきました。100組いれば100通りの事情があり、それぞれのライフプランがあります。カップルでしっかりと話し合い、二人で向き合っていってください。



皆様のお役に立てるよう、今年も検査室だよりを通して様々な情報を発信していきます。ご意見等ありましたらお寄せ下さい。今年もどうぞよろしくお願い致します。

公衆保健協会 検査室

